

敢へて私の懐を布ぶる歌三首

八八〇番

天離る 鄙に五年 住まひつつ 都のてぶり  
忘らえにけり

八八一番

かくのみや 息づき居らむ あらたまの 来経行  
く年の 限り知らずて

八八二番

我が主の み霊賜ひて 春さらば 奈良の都に  
召上げたまはね